



# 学校だより 7月号

横浜市立日吉南小学校

令和5年6月30日

## 本物体験の力

校長 山中 真紀子

「今日はプールできるかな。」と子どもたちが登校してきます。この「あたり前」の姿を嬉しく感じるのは私だけではないはずです。

先日の授業参観には多くの方にご来校いただきありがとうございました。この梅雨の時期、子どもたちは体調を崩しやすく、保護者の方に急な連絡をすることも多々ありました。急な対応、そして日々の教育活動にご理解ご協力をいただきますことに感謝いたします。

### 豊かな体験で広がる

6月は、5年生の三浦宿泊体験学習からスタートしました。初めての宿泊ではありましたが、各ご家庭の協力のもと、自分で魚を手開きしたりジャガイモを掘ったりと普段できない体験をし、とても良い表情で2日間を過ごしました。社会や総合に結び付け、学校に帰ってきてからも充実した学習を行っています。

6年生の東京見学では、社会の学習と総合「キャリア教育」を関連させ、国会とキッザニアに行ってきました。キッザニアは小さな社会体験の場でもあります。働くということ、仕事ということ以外にも、「そこに集まった人とどう関わり、進めていくのか」「時間を考えて自分のスケジュールを組むこと」などの大切さを感じることもできました。

3年生は劇団四季のミュージカルを日生劇場に見に行きました。「豊かな情操」「多様な価値観」を育むため、優れた舞台芸術に触れる機会を提供していただきました。『小学生を取り巻く環境における、いじめの低年齢化等の社会課題を踏まえ、ミュージカルを通して、心の健全育成に資するメッセージを、分かりやすく伝えてまいります。』という主旨のもと、子どもたちの心に強く、深く残る時間となりました。

### その先へ

6月30日には4年生が愛川体験学習へ、7月には6年生が日光修学旅行へ行きます。

ただ行くだけでなく、子どもたちに必要なものを必要なタイミングで与えていくこと、そしてそれらの体験を価値あるものにしていくことが学校の役目でもあります。遠足や校外学習から帰ってくると、引率職員で活動を振り返り、場所、時期、活動内容、「この活動は子どもたちの発達段階に合っていたのか」について必ず検証します。そして、「この活動は本当に必要なのか」についても考え、次年度へ引継ぎます。コロナ前に戻すことだけに目が行ってしまうと子どもを大切に活動・体験にはなりません。意味をもたせ、子どもたちにとって必要感や達成感が得られたのかを大切にしていきたいです。とはいっても「本物体験の力」の偉大さを感じさせられた6月でした。

### 桜の木

先日、「桜門側の桜の木が枯れていて、このままにしておくと危険」との連絡を受けました。この4月、多くの人の目を楽しませてくれてただけに驚きましたが、安全を考え厳しい判断をしなくてはなりません。

「なんで桜門という名前なの。」と聞きに来る子どもたち、写真を撮るまちの人の姿が目につかび、桜の木が愛されて、大切にされていたことを引き継いでいかなくてはと感じました。



夏休みまで1か月をきり、子どもたちは多くの体験を積み成長してきました。夏休みには夏休みだからこそできる体験をして、心と体を豊かに大きく成長させることを願っています